

平成31年度 北海道大学大学院
文学院修士課程入学試験（前期）

試験区分	<input checked="" type="checkbox"/> 一般入試 <input type="checkbox"/> 外国人留学生特別入試 <input type="checkbox"/> 社会人特別入試（後期のみ）
試験科目名	<input checked="" type="checkbox"/> 専門試験（ アイヌ・先住民学 ） <input type="checkbox"/> 共通外国語（ ）
出題の意図	<p>アイヌ・先住民学では、アイヌ民族をはじめとする先住民族について、学際的に研究することが求められる。</p> <p>学部ではアイヌ・先住民について学際的に学ぶことは難しいが、大学院でのアイヌ・先住民研究を志望する受験者の準備状況を把握するため、先住民族に関わる重要事項のひとつとして、先住民族言語政策についての知識と考え方を問う。</p> <p>また、学部で履修した専門科目の理解度や、先住民族言語の研究に必要な能力の程度を把握するため、言語学の基礎知識と応用力を問う。</p>

平成31年度

北海道大学大学院文学院修士課程入学試験問題（前期）

（専門試験） アイヌ・先住民学 全2枚のうち1枚目

この試験では、試験問題 2 枚、解答用紙 4 枚を配付する。

以下の[1]と[2]から1問を選択し、(1)と(2)に解答しなさい。(1)と(2)の解答は別の解答用紙に記入し、それぞれの解答の冒頭に、選択した問題番号を明記すること。

1

- (1) 海外諸国の先住民族言語政策と日本のアイヌ語政策について、それぞれの根拠となる法令等にも言及しつつ、比較して論じなさい。
- (2) 以下はある言語の自動文の例である。名詞と格接尾辞の間をハイフン（・）で示してある。この言語の名詞と格接尾辞の間で起こる音交替の規則を推定しなさい。ここでは語彙論的な情報が欠けているため、必ずしも満足のいく音交替規則が導き出せるとは限らないことに留意すること。なお、下書きが必要な場合は、問題用紙の余白や裏面を使用すること。

pax·kir ^h pazd.	「石を投げた」
qomr ^h ·kir ^h pazd.	「砂を投げた」
pud·yir ^h zad.	「弓で叩いた」
matl·yir ^h tfo xud.	「マトル銛で魚を殺した」
hudyun·yir ^h jupt.	「それらで結んだ」
qan·gir ^h vid.	「犬ぞりで行った」
t ^h as·tox vid.	「どこへ行った（のか）」
p ^h r ^h af·tox vid.	「自分の家へ行った」
p ^h fo·rox vid.	「自分の村へ行った」
p ^h ɲafq·rox itt.	「自分の友に言った」
pal·rox vid.	「山へ行った」
nin·dox itt.	「私たちに言った」
təgmetf·rox vid.	「トゥグムチ村へ行った」
p ^h mam·rox itt.	「自分の妻に言った」

2

(1) 海外諸国の先住民族言語政策と日本のアイヌ語政策について、それぞれの根拠となる法令等にも言及しつつ、比較して論じなさい。

(2) 次の言語学用語について、具体例を示しつつ簡潔に説明しなさい。

- ① 従属部標示と主要部標示
- ② 焦点
- ③ 分裂能格性